

高校入試ガイドンス

1. 入試概要

◆ 帰国生の受け入れ & 帰国生入試の資格・条件

■ 国立大学附属高校

帰国生に対して特別の受け入れ枠を持つ高校は、右記の6校になります。

この他に、東京学芸大学附属国際中等教育学校の後期課程では、高校3年生の4月まで編入生を受け入れています。

・筑波大学附属	(東京都)
・筑波大学附属駒場	(東京都)
・東京学芸大学附属	(東京都)
・愛知教育大学附属	(愛知県)
・名古屋大学教育学部附属	(愛知県)
・大阪教育大学附属池田校舎	(大阪府)

■ 帰国枠資格条件例（海外滞在年数・帰国後の期間制限・中学校課程の修了等）

【筑波大学附属(2022年度入試)】

次のいずれかに該当する者

- (1) 日本の中学校の学齢期に相当する年間のうち、海外に引き続き2年以上滞在して教育を受けている者

[注]「海外に引き続き2年以上滞在」したことになる者とは、次の条件を満たしている者を含む。

今回の海外滞在は1年以上2年未満であっても、それ以前の小学校・中学校時に、海外日本人学校または海外現地校に在学していた期間の2分の1を今回の滞在期間に加えると、合計2年以上になる者

- (2) 以下のいずれかに該当する者

ア 海外日本人学校中学部を2022年3月に修了見込みの者

イ 海外現地校の課程(9か年の学校教育課程)を修了し、2021年4月1日以降に帰国した者

ウ 海外日本人学校に帰国時まで在籍し、2021年6月1日以降に帰国し、日本国内の中学校を2022年3月に卒業見込みの者

エ 海外現地校の課程(9か年の学校教育課程)を修了せずに、2021年6月1日以降に帰国し、日本国内の中学校を2022年3月に卒業見込みの者

【筑波大学附属駒場(2022年度入試)】

次のいずれかの条件を備えていること。

- (1) 出願時に海外に在住している場合は、2022年3月31日までに本校の定めた通学区域内に保護者(志願者の父または母)と同居し、そこを生活の本拠とする者
- (2) 2021年4月1日から2022年3月31日までの間に帰国した者、または帰国予定の者で、帰国の時点で海外に継続して1年8ヶ月以上在住した者

【筑波大学附属坂戸(2022年度入試)】

《SG入試 海外帰国生特別選抜》

次の(1)および(2)(3)(4)の条件をすべて満たす者

- (1) 以下の①②のいずれかに該当する者

①海外日本人学校の中学校課程を修了した者、又は2022年3月までに修了見込みの者

②外国において学校教育における9年の課程(海外現地校)を修了した者、又は2021年3月修了見込みの者

- (2) 出願時に高等学校、中等教育学校後期課程および高等専門学校に在籍していない者

- (3) 出願時に高等学校、中等教育学校、および高等専門学校を卒業していない者

- (4) 次の条件に該当する者

2019年4月1日から2022年3月31日までの間に帰国または帰国予定で、帰国の時点で日本国外における在学期間が継続して1年8ヶ月以上の者

【東京学芸大学附属(2023年度入試)】

下記の条件をすべて満たすこと。

- (1) 2023年3月までに、滞在先の国または地域にある学校に、日本の中学校の学齢期に相当する3年間のうち2年間以上在学し、教育を受けた者であること
- (2) 出願資格(1)においては、保護者の海外勤務に伴い、海外勤務を要する保護者と共に滞在した期間であること
- (3) 日本に帰国した場合は、帰国後、本校への入学までの期間が1年未満であること
- (4) 以下のいずれかの条件を満たすこと
- ① 日本の中学校か中等教育学校前期課程を2023年3月までに卒業見込み・修了見込みの者
- ② 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者、または2023年3月までに修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が、中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者、または2023年3月までに修了見込みの者
- ④ 中学校卒業程度認定試験により、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者

【名古屋大学教育学部附属(2022年度入試)】

(入学資格) 海外で引き続き2年以上の学校生活を送り、2020年3月30日以降に帰国した者、または2022年3月までに海外での学校生活が引き続き2年以上となる者

(応募条件) 次の条件をともに備えていること

- (1) 本人・保護者とともに本校入学が第一志望であること

※ 入学を許可された場合は必ず入学してください。

- (2) 入学までに、片道通学時間70分以内のところに保護者と居住していること

【大阪教育大学附属池田校舎(2022年度入試)】

下記の条件を満たすこと

- (1) 帰国生徒にあつては、保護者との外国在住期間が2年6ヶ月以上の者で帰国後2年以内の者
- (2) ① 学校教育法に定める中学校を卒業もしくは中等教育学校前期課程を修了した者、または2022年3月に卒業・修了見込みの者
- ② 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者、または2022年3月に修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有すると認定した在外教育施設の当該課程を修了した者、または2022年3月に修了見込みの者
- (3) 保護者と同居し、自宅から通学できる者
- (4) 通学時間が片道1時間30分以内の地域に居住する者、または入学までに居住予定の者

■ 主要私立高校

国語・数学・英語の3教科で、一般入試と同一問題の入試を実施する高校がほとんどですが、青山学院や中央大学杉並のように、一般入試とは異なった適性検査や基礎学力検査を課す高校もあります。一般入試と同一問題の場合でも入学審査の際に「特別な配慮」をする高校も多くあります。

■ 首都圏

《東京都》

【青山学院(2023年度入試)】

- (1) 1年以上継続して、現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校に在籍していた者で、帰国後2年10カ月以内(2020年6月以降の帰国)であること。資格算定の基準日は、入学予定日(4月1日)です。
- (2) 次のいずれかに該当する者
 - ① 2023年3月に中学校を卒業見込みの者または2022年3月に中学校を卒業した者
 - ② 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校いずれかに在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していなくてもよい。

【江戸川女子(2022年度入試)】

- (1) 現地滞在期間1年以上、帰国3年以内の者
- (2) (第一志望者)英語検定準2級以上を取得している者

【桜美林(2023年度入試)】

- (帰国生特別入試)
- 海外在留期間1年以上で、出願時海外日本人学校中学部に在籍中(帰国生優遇)
- 海外在留期間1年以上、帰国後3年以内であること

【神田女学園(2022年度入試)】

原則、海外在留1年以上かつ帰国後3年以内の者

【共立女子第二(2022年度入試)】

原則として、本人が継続して1年を超える期間海外に在留し、帰国して3年以内の者(受験日を起算点とする)

【慶應義塾女子(2023年度入試)】

- (1) 2023年3月31日までに、国の内外を問わず学校教育における9年の課程を修了または修了見込みの者。ただし、「9年の課程」とは、我が国の義務教育の課程に相当するものであること
 なお、中学校卒業までに少なくとも9年間の教育課程を必要とする国において、成績優秀者等が「飛び級」によって、通算教育年数が9年未満で卒業した者を含む。
- (2) 国外において中学校またはそれに相当する学校に帰国時まで引き続き20ヶ月以上在籍した者
- (3) 2021年3月から2022年3月31日の間に帰国する者
 ※ 帰国生の出願資格を有する者は、一般の出願資格もあるので、いずれかを選択して出願すること。

【京華(2022年度入試)】

海外在留1年以上かつ帰国後2年以内

【啓明学園(2022年度入試)】

- (1) 1年以上海外に滞在し、原則として帰国後3年以内の者、あるいは1年以上の海外在住の後、帰国する予定の者
- (2) 国内インターナショナルスクールに2年以上在籍している者

【工学院大学附属(2023年度入試)】

海外在住経験が1年以上あり、帰国後3年以内の者。またはそれに準ずる海外生活経験のある者

【佼成学園(2022年度入試)】

海外で1年以上在留し、帰国後3年以内の者

【国際基督教大学(2023年度入試)】

2016年7月1日から2022年11月30日までの間に継続して1年6か月以上海外に在留し、帰国後5年以内の者(2017年12月1日以降に帰国した者)

【桜丘(2022年度入試)】

原則として、1年以上海外に滞在し、帰国後3年以内の者

【実践学園(2022年度入試)】

外国で教育を受けた者で、海外在留期間が1年以上あり、帰国後3年以内の者または帰国予定者

【品川エトワール女子(2022年度入試)】

海外滞在期間1年以上、帰国後3年未満の子女

【芝浦工業大学附属(2023年度入試)】

以下のいずれかに該当する者

- (1) 海外の学校に2年以上在籍し、出願時に帰国後2年以内の者
- (2) 海外の学校に3年以上在籍し、出願時に帰国後3年以内の者

【淑徳(2023年度入試)】

1年以上在留、帰国後3年以内(入試日から起算)

【順天(2022年度入試)】

海外生活(連続/通算)1年以上、帰国後3年以内の者

【聖徳学園(2022年度入試)】

原則として1年以上海外に滞在し、帰国して3年以内であること

【城北(2022年度入試)】

1年を超える期間海外に在留し、帰国後3年以内(2019年1月1日以降に帰国)であること

【巣鴨(2022年度入試)】

海外在住1年以上で、帰国後3年以内の者

【成蹊(2021年度入試)】

次の要件を全て満たした者

- (1) 帰国直前に連続して2年以上海外の学校に在籍していたこと
- (2) 2019年2月1日以降の帰国であること
- (3) 日本の中学校を卒業または卒業見込みの者、あるいは、海外の学校においてこれと同等と認められる者

【青稜(2022年度入試)】

1年以上海外に滞在し、帰国後3年以内の者

【中央大学杉並(2023年度入試)】

2023年3月31日までに日本国内の中学校、海外の現地校、国際校、日本人学校を卒業または卒業見込みの者

- 保護者の勤務先が発行する「海外在留証明書」によって次のいずれかが証明される者
- (1) 海外滞在期間が、2023年3月31日までに継続して1年を超えるか、超える見込であること
 - (2) 出願時において、海外滞在中であるか、すでに帰国している場合には帰国後の期間が3年以内であること(2020年4月1日以降の帰国であること)

※ Gr9、Year10に在学中の場合は、あらかじめ本校にお問い合わせください。

【中央大学附属(2023年度入試)】

以下のいずれかを満たすこと

- (1) 2019年4月～2023年3月における海外在学期間の合計が1年6ヶ月以上であること。
- (2) 海外在学期間が1年6ヶ月に満たない場合は、2017年4月～2023年3月における海外在学期間の合計が3年以上であること

【東京家政学院大学(2023年度入試)】

海外に連続して1年以上在住し、帰国後3年以内の者

【桐朋女子(2022年度入試)】

海外での生活がおおよそ1年以上で、帰国日が2021年2月20日以降であること

【トキワ松学園(2022年度入試)】

父母の海外勤務に伴い、1年以上に在留し、2019年4月1日以降帰国した者

【日本大学櫻丘(2022年度入試)】

原則として、1年以上海外で教育を受けた者で、帰国後3年以内の者

【広尾学園(2022年度入試)】

以下のいずれかを満たす者

- (1) 海外在住経験が1年以上あり、帰国後3年以内の帰国生
- (2) 英検2級以上、または同等の英語力を有する者(インターナショナルコース希望者のみ)

【広尾学園小石川(2022年度入試)】

以下のいずれかを満たす者

- (1) 海外在住経験が1年以上あり、帰国後3年以内の帰国生
- (2) 英検2級以上、または同等の英語力を有する者(インターAG希望者のみ)

【富士見丘(2023年度入試)】

原則として海外在学期間1年以上、帰国後3年以内の者

【文化学園大学杉並(2023年度入試)】

原則として海外在留期間1年以上、帰国後3年以内の者

【文教大学(2022年度入試)】

海外に1年以上滞在、帰国後3年以内の者

【武蔵野大学(2023年度入試)】

1年以上海外に滞在し、帰国後3年以内の者

【宝仙学園理数インター(2023年度入試)】

《世界オンライン入試》

- (1) 海外の現地校・インターナショナルスクール・日本人学校に在籍(卒業予定)の者
 - (2) 受験時に海外に在住している者。
 - (3) 事前に学校長または帰国生担当教員との個別相談があり、自宅等にSkype通信の環境があること
- 《日本入試》
- (1) 在外期間1年以上、帰国後3年以内の者
 - (2) 海外の学校、あるいは国内インターナショナルスクール卒業(卒業予定)の者

【三田国際学園(2023年度入試)】

海外に継続して1年以上在住し、帰国後3年以内(2020年4月以降帰国)の者

【三田国際学園(2023年度入試)】

海外に継続して1年以上在住し、帰国後3年以内(2020年4月以降帰国)の者

【目白研心(2023年度入試)】

海外在住期間が1年以上在住で、帰国後3年以内

【早稲田大学系属早稲田実業(2023年度入試)】

- (1) 海外勤務者の子女で、保護者に帯同して海外に滞在していた(いる)こと
- (2) 2022年3月から2023年3月までに、9か年の教育課程を修了または修了見込みであること
- (3) 本人が滞在期間と帰国日(予定日を含む)の要件(①または②)を満たしていること
 - ① 滞在期間が継続して1年9ヶ月以上3年未満の場合、2022年1月1日～2023年3月31日の帰国
 - ② 滞在期間が継続して3年以上の場合、2021年1月1日以降の帰国

【早稲田大学高等学院(2022年度入試)】

- (1) 2022年3月末まで国の内外を問わず通常の課程による9ヶ年の学校教育を修了または修了見込みの者

※ 海外現地校等で在学中の学年が2022年4月以降に修了予定の方でも、日本の中学3年生の学齢に達しており、海外在留中なおかつ海外現地校等に在学中であれば、原則として、出願資格を満たします。
- (2) 海外在留期間が1年9ヶ月以上で、次のいずれかに該当する者
 - ① 2020年4月以降、2022年3月末までに海外の中学校を卒業または卒業見込みの者
 - ② 2020年6月以降に国内の中学校に転入し、2022年3月末までに国内の中学校を卒業見込みの者

【和洋九段女子(2023年度入試)】

海外の学校に1年以上在籍し、帰国後3年以内の者

《神奈川県》

【アレーシア湘南(2022年度入試)】

海外で1年以上中等普通教育を受けた者で、2021年4月以降に帰国した者

【英理女子学院(2022年度入試)】

保護者の勤務に伴い、海外の教育機関に学齢期において1年以上通学した者

【鎌倉学園(2022年度入試)】

《A方式(書類選考)》

- (1) 海外滞在2年以上／帰国後1年以内(原則)
- (2) 本校の書類選考基準※に適合した者

※書類選考基準 ①②いずれも満たすこと

◎文部科学大臣の認定を受けた日本人学校在籍者

① 日本人学校での最終成績が5教科20以上／25、または国内公立中3年(前期・一学期)の成績が22以上／25

② 英検2級以上またはTOEFL450(CBT130／iBT45)以上、またはそれに準ずるもの

◎海外の現地校・インターナショナルスクールに在籍者

① 日本の中学校に相当する課程の学校成績が優秀

② 英検準1級以上またはTOEFL550(CBT213／iBT79)以上、またはそれに準ずるもの

《B方式(オープン)》

海外滞在1年以上／帰国後2年以内(原則)

【鎌倉女子大学(2022年度入試)】

海外滞在1年以上、帰国後3年以内の者

【関東学院六浦(2022年度入試)】

(A型・B型) 海外在住期間が1年以上の者

(C型) 海外在住期間が1年以上、帰国後3年以内の者

【北鎌倉女子学園(2022年度入試)】

海外生活が継続して1年以上、帰国後2年以内の方

【慶應義塾(2022年度入試)】

- (1) 2022年3月31日までに学校教育における9年間の課程を修了または修了見込みの者
- (2) 本校の過年度の入学入試において出願資格を有したことがない者
- (3) 国内の高等学校に在籍したことがない者
- (4) 2021年2月末日時点で国外に在籍し、国外の学校に在籍していた者
- (5) 2019年4月から2022年3月までの間に、引き続き22か月以上、国外において学校に在籍していた者、または在籍する見込みの者

【慶應義塾湘南藤沢(2023年度入試)】

- (1) 2022年4月以降、2023年3月末までに、学校教育における9年の課程を修了または修了見込みの者(ただし「9年の課程」とは、我が国の義務教育の課程に相当するものであること)
- (2) 次の4項目のうち1項目を満たしていればよい
 - ① 2020年4月1日から2023年3月31日までの3年間に通算1年6ヶ月以上、国外の学校に在籍した者
 - ② 2017年4月1日から2023年3月31日までの6年間に通算3年間以上、国外の学校に在籍した者
 - ③ 2014年4月1日から2023年3月31日までの9年間に通算5年間以上、国外の学校に在籍した者
 - ④ 国外学校在籍期間と国内在住期間をそれぞれ、2023年3月から始めて2014年4月に向けて遡って数えていき、「ある時点」でそれまでの通算国外学校在籍期間が通算国内在住期間を9ヶ月うわまわる者(ただし、「ある時点」では、通算国外学校在籍期間が18ヶ月(1年6ヶ月)以上であること)
- (3) TOEFL iBT 70点以上、またはIELTS 5.5点以上、または実用英語技能検定試験(S-CBT／CBTを含む)準1級以上を取得している者

【聖セシリア女子(2022年度入試)】

海外滞在1年以上(原則)で、帰国後3年以内の者

【桐蔭学園(2021年度入試)】

《海外子女入試》

出願時海外在留者で、2022年3月末までに日本に帰国を予定の者
《帰国生入試》

2014年4月以降に帰国した、海外在留期間が1年以上の者

【桐光学園(2022年度入試)】

以下の条件をすべて満たしていること

- ① 保護者の海外在留に伴う海外在学期間が通年1年以上で、2019年1月以降に帰国した者(国内インターナショナルスクールに2年以上在籍している者)
- ② 入学後、原則として保護者のもとから通学可能な者。

【日本女子大学附属(2022年度入試)】

次のいずれかを満たし、入学後保護者の元から通学できる者

- (1) 保護者と共に海外に在在する期間が小学校6年次6月以降に2年以上あり、中学2年次(2020年)の6月以降に帰国して日本の中学校またはこれに準ずる学校を2022年3月に卒業見込みの者
- (2) 保護者と共に継続して2年以上海外に在在し、日本の中学校に相当する教育課程を修了した者、もしくは中学校に相当する海外の学校に現在在籍中の者

【日本大学(2022年度入試)】

2021年11月1日現在、海外での滞在期間が1年以上あり、2018年3月以降に帰国の者

【法政大学国際(2022年度入試)】

継続して1年以上海外に在在し、出願時に帰国2年6か月以内の者

【法政大学第二(2022年度入試)】

海外で1年以上中等普通教育を受け2020年3月以降に帰国した者

【山手学院(2022年度入試)】

海外在留1年以上で、2019年4月以降に帰国した者

【横浜女学院(2022年度入試)】

海外滞在1年以上、帰国後3年以内

【横浜隼人(2022年度入試)】

原則として2年以上在在し、2019年4月1日以降に帰国した者

《千葉県》

【市川(2023年度入試)】

- (1) 2023年3月に中学校を卒業見込みの者。もしくはこれに準ずる学校に在籍し、日本の学齢で中学3年生に相当する者。または卒業した者
- (2) 海外滞在期間が1年以上で、帰国時期が2019年12月以降の者。もしくはこれに準ずる者

【渋谷教育学園幕張(2022年度入試)】

2022年3月に中学校を卒業見込みの者、または2021年4月以降、2022年3月末までに9年課程修了または見込みの者

【昭和学院(2022年度入試)】

海外滞在が1年以上で2020年以降に帰国した者

【昭和学院秀英(2021年度入試)】

2018年4月1日以降、海外での在学期間が1年以上の者

【西武台千葉(2022年度入試)】

- (1) 外国での在在期間が継続して2年以上4年未満で、帰国から2022年1月1日までの期間が、原則として1年以内の者
- (2) 外国での在在期間が継続して4年で、帰国から2022年1月1日までの期間が、原則として2年以内の者

【専修大学松戸(2022年度入試)】

海外在在1年以上、帰国後3年以内の者

【流通経済大学付属柏(2022年度入試)】

中学3年間の間に1年間以上海外に滞在した者

【麗澤(2023年度入試)】

海外の学校に通算1年以上在籍し帰国後3年以内の帰国生

《埼玉県》

【大妻嵐山(2023年度入試)】

小学5年生以降に、海外在留経験が継続して1年以上の女子生徒

【大宮開成(2022年度入試)】

本校だけを志願する者で、海外在留期間が1年以上であること

【慶應義塾志木(2022年度入試)】

出願時において、次の出願資格をすべて満たす者

- (1) 2021年4月以降、2022年3月末までに学校教育における9年間の課程を修了、または修了見込の者
ただし、上記の「9年間の課程」とは、日本の義務教育の課程に相当するものとする。また、学校教育法に定める日本の高等学校に在籍したことのある者は除く。
- (2) 国外において中学校またはそれに相当する学校での在学期間が、帰国時までに通算して1年10ヶ月以上である者
- (3) 2021年2月以降、2022年3月までに帰国する者

【埼玉栄(2022年度入試)】

原則として在留期間が1年以上、帰国後1年以内の者

【栄東(2022年度入試)】

- (1) 海外における滞在期間が1年以上で帰国後3年以内の方
- (2) 2022年3月31日までに国内の中学校と同程度の日本人学校もしくは、外国の学校の課程(9ヶ年学校教育課程)を修了、または修了見込みの方

【城西大学付属川越(2023年度入試)】

9か年の教育課程を2020年4月～2023年3月日の間に修了(もしくは修了見込み)の者で、2020年4月1日～2023年3月31日の期間中に海外の学校に、継続して1年以上在籍の者

【昌平(2022年度入試)】

海外に継続して2年以上在在し、帰国後4年以内の者で、国の内外を問わず、通常の課程による9年間の学校教育を修了、または2022年3月末までに修了見込みの者

【西武学園文理(2023年度入試)】

過去に海外生活が継続して1年以上あり、学校教育における9か年の課程を修了し、海外あるいは国内の中学校を卒業または卒業見込みの者

【獨協埼玉(2022年度入試)】

原則として本人が継続して2年以上海外に在在し、日本の中学校で2年次または2年次の就学年齢に帰国した者

【早稲田大学本庄高等学院(2023年度入試)】

- (1) 国の内外を問わず、通常の課程による9年間の学校教育を修了、または修了見込みであること。ただし、本学院が、中学校卒業と同等以上の学力があると認めた者についてはこの限りではない。
- (2) 海外在学期間が次のいずれかを満たす者
 - ① 2020年4月～2023年3月における海外在在期間の合計が原則として1年6ヶ月以上であること
 - ② 上記①における海外在在期間の合計が1年以上1年6ヶ月未満の場合は、2016年4月～2023年3月における海外在在期間の合計が4年以上であること

《茨城県》

【茨城キリスト教学園(2022年度入試)】

- (1) 継続1年以上2年未満の者で、帰国後1年以内の者
- (2) 継続2年以上4年未満の者で、帰国後2年以内の者
- (3) 継続4年以上の者で、帰国後3年以内の者

【江戸川学園取手(2022年度入試)】

海外の学校に通算1年以上在籍し、帰国後3年以内(2020年度4月1日以降に帰国)であること

【光栄VERITAS(2023年度入試)】

海外の学校に通算して1年以上在籍、帰国後3年以内の者

【土浦日本大学(2022年度入試)】

《海外入試》 出願時において海外に在在しており、次のいずれかに該当する者で、日本の義務教育期間における海外修学期間が2022年3月末で1年以上の者

- (1) 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校の中学部を卒業した者、又は、卒業見込みの者

(2) 海外の学校教育における9学年の課程(日本の義務教育の課程に相当するもの)を修了した者、あるいは2022年3月または6月までに修了見込みの者

《国内試験》 海外在住が小学校の学齢以降出願日までに1年以上にわたる者で、次のいずれかに該当する者。なお、帰国後の年数は問わない。

- (1) 海外現地校、インターナショナル校または全日制日本人学校に在籍している者、または卒業した者
- (2) 海外の学校教育における9学年の課程(日本の義務教育の課程に相当するもの)を修了した者、あるいは2022年3月または6月までに修了見込みの者
- (3) 国内の中学校を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者

【茗溪学園(2023年度入試)】

《帰国生特別選抜》 海外在留中に現地校または国際校に在学し、下記のいずれかに該当する者

- (1) 2017年4月～2023年3月の間の海外在留期間が3年以上の者
- (2) 2019年4月～2023年3月の間の海外在留期間が2年以上の者
- (3) 出願時に現地校または国際校に在学し、2023年3月までの在学期間が1年以上の者

※ 海外在留期間は通算してください。長期休暇等による一時帰国及び新型コロナウイルス感染症の影響による帰国は、在留期間に含まれます。

※ 現地校・国際校と日本人学校の両方に在学していた場合も出願できます。
※ 国内の国際校に在学していた期間を海外在留に準ずる期間として扱う場合があります。在学経験がある場合は、事前にお問い合わせください。

《帰国生特別選抜》 海外在留中に現地校または国際校に在学し、下記のいずれかに該当する者

- (1) 2017年4月～2023年3月の間の海外在留期間が3年以上の者
- (2) 2019年4月～2023年3月の間の海外在留期間が2年以上の者
- (3) 出願時に現地校または国際校に在学し、2023年3月までの在学期間が1年以上の者

※ 海外在留期間は通算してください。長期休暇等による一時帰国は、在留期間に含まれます。

※ 現地校・国際校と日本人学校の両方に在学していた場合も出願できます。
※ 国内の国際校に在学していた期間を海外在留に準ずる期間として扱う場合があります。在学経験がある場合は、事前にお問い合わせください。

■ 東海圈

《愛知県》

【桜丘(2022年度入試)】

海外に1年以上継続して滞在し、帰国後3年以内の者

【滝(2023年度入試)】

次のいずれかに該当する者で、日本の義務教育期間における就学期間が1年以上あり本校を第一志望とし、合格した場合は本校への入学を確約できる者

- (1) 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校の中学を卒業した者、又は卒業見込みの者
- (2) 海外の学校に就学している者等で、本校において、中学卒業と同等以上の就学実績があると認められた者
- (3) 帰国後、日本国内の中学校を卒業した者、又は卒業見込みの者

【中京大学附属中京(2022年度入試)】

(1) 日本の義務教育期間において2年以上海外に在籍し、帰国後2年以内で、日本の中学校を2021年3月に卒業、または2022年3月に卒業見込みの者

(2) 在外教育施設(海外の日本人学校中学部)を2021年3月に卒業、または2022年3月に卒業見込みの者

(3) 海外の学校(正規の学校)に就学している者で、9年間の課程を修了、または本校において中学校卒業と同等の就学実績があると認められた者

【名古屋(2022年度入試)】

次のいずれかに該当する者で、日本の義務教育期間における海外就学期間が2年以上(2学年分以上修了)で本校を志望する者

- (1) 文部科学大臣の指定を受けた海外の日本人学校(全日制)の中学部を2022年3月までに卒業見込みの者
- (2) 外国の学校教育における9年間課程を修了した者。または2022年3月までに修了見込みの者
- (3) 帰国後1年未満で日本国内の中学校を卒業した者。または2022年3月までに卒業見込みの者

【光ヶ丘女子(2022年度入試)】

海外の現地校に2年以上在学し、原則として帰国後2年未満の者

■ 関西圏

《大阪府》

【大阪薫英女学院(2022年度入試)】

原則として、在留期間が継続して1年以上で帰国後3年以内の方

【関西大倉(2022年度入試)】

海外の学校に1年6か月以上在籍し、帰国後の期間が2年以内の者(帰国後の期間とは、最終帰国の日から入学試験の日までとする)

【関西学院千里国際(2023年度入試)】

海外在留期間が1年以上2年未満の場合は帰国から入試日までの期間が2年以内、海外在留期間が2年以上の場合は帰国から入試日までの期間が3年以内であること

【清教学園(2022年度入試)】

外国で教育を受けた者のうち、外国滞在期間が1年以上、帰国後3年以内

【清風(2022年度入試)】

専断とする者で、原則として1年以上海外に滞在し、帰国後3年以内

【帝塚山学院泉ヶ丘(2022年度入試)】

原則として、外国における滞在期間が1年以上あり、出願時において帰国後3年以内の者

【プール学院(2022年度入試)】

外国における滞在期間が2年以上で帰国後約2年以内の方

【早稲田摂陵(2022年度入試)】

海外での生活体験期間が1年以上で、日本帰国後3年を経過しない者

《京都府》

【京都外大西(2022年度入試)】

海外の学校に連続して在学した期間が、帰国後国内の小学校・中学校に入学・転入したときから2022年1月までの期間と同じか、それより長いこと

【京都聖母学院(2022年度入試)】

海外在住経験のある女子生徒

【同志社国際(2023年度入試)】

(帰国生徒の認定)

つぎのいずれかの条件を満たす者

- (1) 海外在住期間が1年6ヶ月以上の者で、帰国後の期間が海外在住期間を越えない者
- (2) 小学校課程における海外在住期間が4年6ヶ月以上の者
- (3) 海外在住期間が5年6ヶ月以上の者

<注1> 帰国後の期間とは、最終帰国日から当該入学試験日までとする

<注2> 海外在住期間は、3ヵ月以上連続した、保護者に帯同した全海外在住期間を加算する

<注3> A選考に出願する場合、正規の学校に3ヶ月以上連続して在籍し、1回以上の正式な成績表が発行された本人の留学期間は、海外在住期間に加算する

<注4> B選考に出願する場合、海外在住期間に本人の留学期間は含まない

(出願資格)

つぎのいずれかに該当する者。

- (1) 外国の学校教育(国内の外国学校を含む)における9年生の課程を修了した者、または、2023年6月までに修了見込みの者。
- (2) 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校中学部を卒業した者、または、卒業見込みの者。
- (3) 国内中学校を卒業した者、または卒業見込みの者。
- (4) その他、相当年齢に達し、本校において、中学校を卒業した者と同等の学力があると認められた者。

【立命館宇治(2022年度入試)】

次のいずれかに該当する者で、日本の義務教育期間における海外就学期間が1年6ヶ月以上の者

- (1) 現地校・インターナショナルスクールにおける9学年の課程を修了した者、あるいは2022年6月までに修了見込みの者
- (2) 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校中学卒業生、または2022年3月卒業見込みの者
- (3) 国内の中学校を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者
- (4) 国内の中学校と同等のインターナショナルスクールにおいて9学年の課程を修了した者、および2022年6月までに修了見込みの者

※ 海外就学期間は、途中帰国していても全期間を加算する。

《兵庫県》

【関西学院(2023年度入試)】

以下のすべてに該当する者

- (1) 海外に在住している者、または在住していた者で、次のいずれかに該当する者
 - ① 継続して海外在住3年以上で、2022年3月1日以降に帰国の者
 - ② 継続して海外在住2年以上で、2022年7月1日以降に帰国の者
- (2) 本校を専願とし、次のいずれかに該当する者
 - ① 2022年6月から2023年6月の間に、外国の学校教育における9学年の課程を修了した者(ただし、すでに日本の高等学校に転編入学した者は受験できない)、あるいは修了見込みの者
 - ② 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校中等部を2023年3月31日までに卒業見込みの者
 - ③ 帰国後国内の中学校を2023年3月31日までに卒業見込みの者

※ 2年以上、3年以上の海外在住とは、出国日から帰国日までの期間とする。試験日にまだ海外在住の場合は、2023年3月31日を基準として計算する。

【甲南(2023年度入試)】

以下のいずれかに該当する者

- (1) 海外に1年以上在住し、帰国後半年以内であること
- (2) 海外に2年以上在住し、帰国後1年以内であること
- (3) 海外に4年以上在住し、帰国後2年以内であること

【神戸国際(2022年度入試)】

以下のすべてに該当する者

- (1) 原則として、海外在留期間が通算1年以上の者。ただし、帰国後国内の中学校に転編入学した者は資格がありません。
- (2) 原則、出願時に当該学年に相当する年数の学校教育を受けていること

【神戸野田(2022年度入試)】

海外の学校(現地校、インターナショナルスクール、日本人学校等)に、小学校1年生から中学校3年生までの期間で、1年間以上在籍した経験のある生徒

【神戸龍谷(2022年度入試)】

以下のすべてに該当する者

- (1) 海外在留期間が1年以上2年未満の者で、帰国後2年以内の者
- (2) 海外在留期間が2年以上5年未満の者で、帰国後の期間が海外在留期間を超えない者
- (3) 海外在留期間が5年以上の者

【親和女子(2022年度入試)】

以下のすべてに該当する者

- (1) 日本の中学校、文武科学省が認可する海外日本人学校、及びこれと同等の修業年数を有する海外の学校の課程を2022年3月までに修了した者又は修了見込みの者
- (2) 海外で1年(程度)以上居住歴のある者で出願時において、帰国後2年以内の者
- (3) 中学3年2学期の評定(海外入試出願者は1学期の通知簿)において、5教科(国語・数学・理科・社会・英語)の5段階評定の合計が、17以上(国際コース志望者は英語の評定が4以上)を満たす者。ただし、この成績基準に満たない者、および成績基準が異なる者については、保護者またはこれに代わる者と、本校担当者との事前の相談により出願を認める場合がある。

【須磨学園(2022年度入試)】

2022年3月中学校卒業見込みの者、またはこれと同等と認められる者で下記のいずれかの要件を満たす者

- (1) 出願時、海外の学校に継続して6ヶ月以上在籍している者
- (2) 海外における学校に継続して6ヶ月以上2年未満在籍し、帰国後1年以内の者
- (3) 海外における学校に継続して2年以上3年未満在籍し、帰国後2年以内の者
- (4) 海外における学校に継続して3年以上在籍し、帰国後3年以内の者

※ 帰国後の制限期間は出願時を起点とします。

【百合学院(2022年度入試)】

海外在留期間1年以上で帰国後1年以内の生徒

《奈良県》

【西大和学園(2022年度入試)】

《出願資格》

保護者の海外在留に伴って、外国で教育を受け、海外在留期間が1年以上で帰国後の期間が4年以内の者

■ その他

《北海道》

【立命館慶祥(2023年度入試)】

以下の条件をすべて満たすこと

- (1) 2023年3月までに学校教育における中学校の課程を修了または修了見込みの者
- (2) 小学校1年生から中学3年生までの期間に、海外の現地校等(インターナショナルスクール、日本人学校を含む)に1年以上在籍した経験のある者(在籍期間は海外在住期間全てを算入できます)

《石川県》

【国際高等専門(2022年度入試)】

以下の条件をすべて満たすこと

- (1) 通常の学校教育における9年の課程を修了した者又は2022年3月31日までに修了見込みの者(ただし、上記の「9年の課程」とは、日本の義務教育の課程に相当するものとする)
- (2) 海外の学校(日本人学校を含む)に連続して1年以上在籍し、かつ帰国後2年以内の者

《岡山県》

【岡山学芸館(2023年度入試)】

海外在住期間が1年以上で、2023年3月に日本人学校、海外の現地校、インターナショナルスクールを卒業する者、または、帰国後2年以内で岡山県に所在する中学校以外を卒業する者

《広島県》

【如水館(2023年度入試)】

原則として、日本に中学校と同等とみなすことのできる海外の学校に連続1年以上在学して帰国した(原則として帰国直後)者

《福岡県》

【西南学院(2022年度入試)】

海外就学期間が2年以上あり、出願時に帰国から1か年を経過していない者

《佐賀県》

【早稲田大学系属早稲田佐賀(2022年度入試)】

以下の条件をすべて満たすこと

- (1) 海外滞在期間が継続して1年8ヶ月以上3年未満の場合、帰国日は2021年1月1日以降、または、海外滞在期間が継続して1年8ヶ月以上3年未満の場合、帰国日は2020年1月1日以降
- (2) 2022年3月までに国の内外を問わず、学齢相当の9か年の学校教育課程を修了または修了見込であること

《沖縄県》

【沖縄尚学(2022年度入試)】

海外から帰国した者で、2022年3月末までに9年課程修了または見込みの者

◆ 帰国枠入試日程

多くの学校では、一般入試と同一日に帰国枠入試も実施していますが、首都圏中心に、海外・帰国生の独自入試を一般入試と切り離して実施している学校もあります。入試日程をうまく調整すれば、幅広く受験校を選択することができます。入試日程をうまく調整すれば幅広く受験校を選択することができますが、合格発表日の数日後に手続き締切日になる学校もありますので、その日程もスケジュールに組み込んでおく必要があります。

以下は一般入試と別日程で帰国枠入試を実施している主要高校(◎がある学校は2023年度の日程)になります。

《 東京都 》

- <10月> (15日) ◎佼成学園① (29日) ◎目白研心① (30日) ◎工学院大学附属①
 <11月> (2日) ◎佼成学園女子① (3日) ◎桜美林(合格発表) 広尾学園小石川(AG)① (12日) ◎神田女学園①
 (12日) ◎神田女学園① ◎佼成学園② (13日) ◎芝国際① ◎文化学園大学杉並① (16日) ◎聖徳学園①
 (19日) ◎武蔵野大学 (20日) ◎かえつ有明R (25日) ◎三田国際学園① (29日) ◎目白研心②
 <12月> (1日) ◎文京学院大学女子A① (3日) 京華女子 ◎順天① (4日) 藤村女子① (5日) 江戸川女子 ◎かえつ有明H
 (5日) ◎工学院大学附属② (7日) ◎京華 (8日) ◎富士見丘① (9日) ◎佼成学園女子② ◎品川エトワール女子
 (10日) ◎佼成学園③ ◎芝浦工業大学附属 ◎芝国際② ◎宝仙学園理数インター (10日) ◎神田女学園② 駒込①
 (11日) ◎文化学園大学杉並② (13日) 広尾学園小石川(AG)② ◎三田国際学園②
 (14日) ◎聖徳学園② 広尾学園小石川(本科・SG) (16日) ◎国際基督教大学(推薦) 広尾学園(インター) ◎明星学園
 (17日) 広尾学園(医進・サイエンス) ◎トキワ松学園① (19日) 文教大学付属 (21・22日) ◎中央大学附属
 (22日) ◎関東国際① ◎和洋九段女子 (25日) ◎東京家政大学附属女子 (26日) 実践学園
 <1月> (4日) 青稜 (7日) ◎工学院大学附属③ ◎文京学院大学女子A②
 (8日) ◎共立女子第二 ◎國學院大学久我山 ◎文化学園大学杉並③ (10日) ◎佼成学園女子③
 (12日) ◎富士見丘② 藤村女子② (14日) ◎佼成学園④ (18日) ◎聖徳学園③
 (22日) ◎関東国際② ◎啓明学園 ◎麹町学園女子 ◎順天② ◎聖学院 成蹊 ◎帝京 ◎桐朋女子A 日本大学櫻丘
 (23日) ◎中央大学杉並 ◎文京学院大学女子B① (28日) ◎国際基督教大学(書類選考) (31日) ◎青山学院

《 神奈川県 》

- <10月> (7日～2月25日) 関東学院六浦(A型・B型) (23日) 関東学院六浦(C型)①
 <11月> (9日) ◎鎌倉学園(A方式合格発表) (11日) ◎横浜女学院 (I型:書類合格発表) (15日) ◎桐蔭学園(書類合格発表)
 (20日) ◎英理女子学院 (27日) 関東学院六浦(C型)②
 <12月> (4日) 法政大学国際① (7日) ◎横浜女学院 (II型:書類合格発表) (10日) ◎日本大学 (11日) ◎聖セシリア女子
 (16日) ◎横浜女学院(III型) (17日) 鎌倉女子大学① (27日) 関東学院六浦(C型)②
 <1月> (5日) ◎桐光学園 (6日) ◎函嶺白百合学園 (11日) ◎桐蔭学園 (14日) ◎北鎌倉女子学園
 <2月> (3日) 法政大学国際②

《 埼玉県 》

- <12月> (3日) ◎大妻嵐山 (23日) ◎昌平
 <1月> (23日) ◎早稲田大学本庄高等学院(I選抜:2次)

◆ 帰国生入試選抜方法

国内の国公立高校の一般入試科目は、国語・数学・英語・社会・理科の5教科です。

帰国生入試では、5教科を課している高校は「帰国生に対して、特別な受け入れ枠や受け入れ体制を持つ学校」に含まれる国立大学附属のうち2校と、少数の県立高校に限られます。それ以外の国公立・私立の大半の帰国生受け入れ高校では、国語・数学・英語の3教科の学科試験や面接によって選考されます。中には、国語・英語の2教科と面接、英語の1教科と面接、作文と面接、面接だけといった選考方法をとる高校もあります。通常は入学試験(筆記試験)の総合点で合否が決定されることが多いですが、帰国生入試においては、その特徴を考慮して、各学校で様々な観点から選考が行われています。

以下、具体的なパターンを紹介しておきます。

(1) 出身学校の特徴を考慮する主な高校

現地校・インター校出身者は国内中学校と異なる言語、制度やカリキュラムで教育を受けていることから、現地校・インター校の学校成績を重視し、「面接」、「作文・面接」や「英語・面接」だけで選考します。一方、日本人学校出身者は、3教科の入試で選考します。「国語」に「作文」などが加わり、一般入試とは別問題を課す別枠の募集・選抜方法を採用しています。

現地の教育制度やカリキュラムで学習している生徒にとつては、現地校の学習に専念できるという点で、受験しやすくなっています。そのために応募が集中し、入試の実質倍率や現地校・インター校の学校成績の基準も高くなり、一概に有利であるとは言いきれません。また、国際基督教大学(推薦入試)や鎌倉学園(一次A方式)の出願条件に、英語の資格(英検・TOEFL・TOEICなど)を取得しておくことが定められており、事前に準備をする必要があります。

・東京都立国際	(東京都)
・茗溪学園	(茨城県)
・かえつ有明	(東京都)
・北豊島	(東京都)
・啓明学園	(東京都)
・工学院大学附属	(東京都)
・佼成学園女子	(東京都)
・国際基督教大学	(東京都)
・聖学院	(東京都)
・桐朋女子	(東京都)
・広尾学園小石川	(東京都)
・富士見丘	(東京都)
・文化学園大学杉並	(東京都)
・三田国際学園	(東京都)
・英理女子学院	(神奈川県)
・鎌倉学園	(神奈川県)
・同志社国際	(京都府)
・立命館宇治	(京都府)
・関西学院千里国際	(大阪府)
・早稲田摂陵	(大阪府) など

(2) 英語力を重視する主な高校

- ① 早稲田大学本庄高等学院(I選抜) (埼玉県)
 ② 渋谷教育学園幕張 (千葉県)
 ③ 桐光学園 (神奈川県)
 ④ 慶應義塾湘南藤沢 (神奈川県)
 ⑤ 桐蔭学園 (神奈川県) など
- このタイプの学校は、以下のような特長があります。
- ① 出願条件に英語の資格(英検・TOEFL・TOEICなど)があり、書類選考時に学校成績の他に前述の英語の資格などを考慮し、学科試験としては「国語・数学」。

- ② 学科試験としては「英語」のみ。
 ③ 出願条件に英語の資格(英検・TOEFL・IELTS)があり、学科試験としては「数学」と「課題型日本語小論文」。
 ④ 3教科の中で「英語」のみ2倍の配点にするなど、英語力を最重視しています。そのため、英語の入試問題の難度が非常に高いものになっています。したがって、現地校・国際校に通っている生徒でもきちんと入試に向けた対策をとって、英語の学力(文章読解力・文法力)をしっかりと身に付けておく必要があります。

(3) 国内一般生と同等の学力を要求する主な高校

- ・慶應義塾志木 (埼玉県)
 ・早稲田大学本庄高等学院 (埼玉県)
 ・慶應義塾女子 (東京都)
 ・早稲田実業 (東京都)
 ・早稲田大学高等学院 (東京都)
 ・慶應義塾 (神奈川県)
 などの多数の私立

帰国生も国内一般生も同一日・同一内容の入試を実施します。国内一般入試で、「難関校」と呼ばれる高校は全てこのタイプに含まれています。選考審査段階で、帰国生に対しては、選考基準がやや緩くなっているようですが、現地校・国際校出身者であっても国内一般生と同程度の入試学力が要求されます。なお、実質競争率で帰国生入試が一般入試よりも高くなる学校もありますが、概ね帰国生入試の方が倍率は低くなっています。

◆慶應義塾(2022年度)◆

区分	募集	受験	合格	倍率
一般生	約 330	1,173	479	2.45
帰国生	若干名	73	38	1.92

◆慶應義塾志木(2022年度)◆

区分	募集	受験	合格	倍率
一般生	約 190	1,155	352	3.28
帰国生	若干名	83	30	2.77

◆慶應義塾女子(2022年度)◆

区分	募集	受験	合格	倍率
一般生	約 80	437	127	3.44
帰国生	若干名	60	22	2.73

◆早稲田実業(2022年度)◆

区分	募集	受験	合格	倍率
一般生・男子	約 50	406	129	3.15
一般生・女子	約 30	302	64	4.72
帰国生・男子	若干名	33	13	2.54
帰国生・女子		16	5	3.20

◆早稲田大学高等学院(2022年度)◆

区分	募集	受験	合格	倍率
一般入試	260	1,389	520	2.67
自己推薦入試	約 100	244	105	2.32

◆早稲田大学本庄高等学院(2022年度)◆

区分	募集	受験	合格	倍率
一般生・男子	約 100	1,677	518	3.24
一般生・女子	約 70	842	222	3.79
帰国生・男子	約 15	119	49	2.43
帰国生・女子	約 10	63	22	2.86

※合格者数は、補欠繰上合格者数は含まず正規合格者数

◆ 帰国生入試の主要高校実質競争率

入試の難易度は、まずは入試科目およびその入試科目の問題のレベルもありますが、実質倍率も影響を与えます。以下は、過去2年間の実質倍率(10名以上受験)が2倍以上の高い高校の一覧です。

■ 首都圏

《神奈川県・埼玉県・千葉県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
慶應義塾湘南藤沢(男女)	158	33	4.79	早稲田大学本庄高等学院(I選抜:男女)	77	20	3.85
早稲田大学本庄高等学院(I選抜:男女)	73	22	3.32	慶應義塾湘南藤沢(男女)	194	63	3.08
早稲田大学本庄高等学院(女子)	63	22	2.86	渋谷教育学園幕張(男子)	23	8	2.88
慶應義塾志木	79	30	2.63	渋谷教育学園幕張(女子)	47	20	2.35
市川(女子)	39	15	2.60	早稲田大学本庄高等学院(男子)	120	48	2.50
早稲田大学本庄高等学院(男子)	119	49	2.43	早稲田大学本庄高等学院(女子)	79	32	2.47
渋谷教育学園幕張(男子)	19	8	2.38	法政大学国際(1回:男女)	47	20	2.35
渋谷教育学園幕張(女子)	35	15	2.33	慶應義塾志木	65	28	2.32
法政大学国際(2回:男女)	21	9	2.33	法政大学国際(2回:男女)	22	11	2.00
法政大学国際(1回:男女)	39	17	2.29				

《東京都》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
國學院大學久我山(男子)	14	2	7.00	筑波大学附属駒場	13	2	6.50
広尾学園(本科・医進サイエンス:女子)	17	3	5.67	早稲田大学系属早稲田実業(女子)	21	4	5.25
かえつ有明(Regular 選考:男子)	10	3	3.33	広尾学園(インター:男子)	21	6	3.50
早稲田大学系属早稲田実業(女子)	16	5	3.20	筑波大学附属	10	3	3.33
中央大学杉並(男子)	71	24	2.96	中央大学附属(男子)	85	28	3.04
広尾学園(インター:女子)	20	7	2.86	中央大学杉並(男子)	85	28	3.04
中央大学附属(女子)	34	12	2.83	国際基督教大学(書類選考:男女)	408	150	2.72
広尾学園(インター:男子)	17	6	2.83	成蹊(男子)	19	7	2.71
慶應義塾女子	60	22	2.72	国際基督教大学(学力試験:男女)	65	25	2.60
青山学院(男子)	78	29	2.69	青山学院(男子)	84	34	2.47
東京学芸大学附属(男子)	24	9	2.67	慶應義塾女子	56	23	2.43
国際基督教大学(学力試験:男女)	57	22	2.59	中央大学杉並(女子)	63	27	2.33
中央大学附属(男子)	46	18	2.56	広尾学園(インター:男子)	28	12	2.33
早稲田大学系属早稲田実業(男子)	33	13	2.54	青山学院(女子)	113	49	2.31
青山学院(女子)	103	42	2.45	中央大学附属(女子)	15	7	2.14
国際基督教大学(書類選考:男女)	332	164	2.02	青稜(男子)	15	7	2.14
				成蹊(女子)	14	7	2.00

以下は、受験者が多い学校(複数回受験者を含む)が30名以上という高校一覧です。

■ 首都圏 《東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
国際基督教大学	513	263	1.95	国際基督教大学	626	260	2.41
早稲田大学本庄高等学院	271	93	2.91	早稲田大学本庄高等学院	276	100	2.76
青山学院	181	71	2.55	青山学院	197	83	2.37
慶應義塾湘南藤沢	158	33	4.79	慶應義塾湘南藤沢	194	63	3.08
中央大学杉並	146	61	2.39	中央大学杉並	148	55	2.69
青稜	133	81	1.64	桐蔭学園	135	114	1.18
桐蔭学園	122	100	1.22	中央大学附属	79	30	2.63
中央大学附属	80	30	2.67	広尾学園	70	29	2.41
広尾学園	80	32	2.50	法政大学国際	69	31	2.23
市川	79	38	2.08	慶應義塾	66	37	1.78
慶應義塾志木	79	30	2.63	慶應義塾志木	65	28	2.32
慶應義塾	73	38	1.92	渋谷教育学園幕張	62	23	2.70
東京学芸大学附属	64	30	2.13	文化学園大学杉並	61	54	1.13
慶應義塾女子	60	22	2.72	早稲田大学系属早稲田実業	60	24	2.50
法政大学国際	60	26	2.31	東京学芸大学附属	56	33	1.70
広尾学園小石川	59	30	1.97	慶應義塾女子	56	23	2.43
渋谷教育学園幕張	54	23	2.35	市川	55	40	1.38
東京都立国際	53	44	1.20	広尾学園小石川	49	28	1.75
早稲田大学系属早稲田実業	49	18	2.72	桐光学園	47	32	1.47
江戸川女子	34	28	1.21	淑徳	45	39	1.15
桐光学園	33	21	1.57	東京都立国際	42	41	1.02
成蹊	31	30	1.03	鎌倉学園	38	37	1.03
文化学園大学杉並	31	29	1.07	桜美林	34	34	1.00
かえつ有明	30	13	2.31	成蹊	33	14	2.36
				青稜	31	16	1.94
				宝仙学園理数インター	31	27	1.15

2. 受験アドバイス

◆ もう一つの入試準備（大学進学）

志望校を選ぶ時には、大学進学のことと考えておく必要があります。特に、大学附属の場合は、系列の大学に志望する学部がなければ、附属校を志望校とするメリットは見当りません。志望校の大学進学状況の詳細は、確認しておく必要があります。附属校と進学校の進学状況を掲載しておきますので、志望校と比較および検討をしてみてください。

【青山学院】

高等部を卒業する生徒の約 85%は青山学院大学へ進学し、専攻分野の関係で約 15%の生徒が他大学を受験しています。

《青山学院大学（2022 年度：内部進学率 87.2%）》

学部	人数	学部	人数
文	35 名	総合文化政策	47 名
経済	44 名	社会情報	10 名
経営	85 名	教育人間	30 名
法	36 名	地域社会共生	2 名
理工	11 名	コミュニティ人間科	1 名
国際政治経済	60 名		
卒業生数	414 名	内部進学者数	361 名

【慶應義塾】

大学推薦に関する Q&A

- Q1 希望学部の進学は高校在学中の成績が影響するのでしょうか。
A1 推薦は在学 3 年間の学業成績の他を総合的に評価しています。
Q2 慶應義塾大学以外の大学への推薦はありますか？
A2 他大学の推薦入試を受験することは可能です。

《慶應義塾大学（2022 年度：内部進学率 99.0%）》

学部	人数	学部	人数
法	224 名	医	22 名
経済	211 名	総合政策	11 名
商	93 名	環境情報	21 名
文	12 名	看護医療	0 名
理工	102 名	薬	3 名
卒業生数	706 名	内部進学者数	699 名

【慶應義塾志木】

本校の卒業生は、学校長の推薦により、慶應義塾大学のいずれかの学部に進学することが認められます。学部にはそれぞれ推薦の人数枠がありますので、すべての生徒の希望に添うことはできません。在学中の成績を全体的に評価し、出席状況や授業への意欲などを総合して最終決定を行います。なお、本校は慶應義塾の一貫教育校ですから、他大学を受験する際には慶應義塾大学への推薦を辞退しなければなりません。

《慶應義塾大学（2022 年度：内部進学率 99.2%）》

学部	人数	学部	人数
法	74 名	医	5 名
経済	79 名	総合政策	1 名
商	21 名	環境情報	9 名
文	12 名	看護医療	0 名
理工	39 名	薬	1 名
卒業生数	243 名	内部進学者数	241 名

【慶應義塾女子】

本校の卒業生は原則として全員慶應義塾大学へ推薦されますが、各学部への進路はさまざまです。

《慶應義塾大学（2022 年度）》

学部	人数	学部	人数
法	54 名	医	5 名
経済	55 名	総合政策	7 名
商	25 名	環境情報	11 名
文	15 名	看護医療	0 名
理工	9 名	薬	8 名
卒業生数		内部進学者数	189 名

【慶應義塾湘南藤沢】

本校高校部を卒業すると、原則として全員が慶應義塾大学のいずれかの学部（10 学部）に推薦されます。

《慶應義塾大学（2022 年度：内部進学率 99.6%）》

学部	人数	学部	人数
法	64 名	医	7 名
経済	56 名	総合政策	15 名
商	17 名	環境情報	19 名
文	8 名	看護医療	4 名
理工	42 名	薬	4 名
卒業生数	237 名	内部進学者数	236 名

【国際基督教大学】

《国際基督教大学（教養学部）への推薦・特別入学》

- ・定員 240 名のうち 80 名（学年の三分の一）が、学業成績と学校生活の状況に基づいて推薦されます。
- ・ICU の一般入試や AO 入試のほか、帰国生には SAT 成績による書類選考や帰国生入試の機会があります。

《他大学への推薦入学》

（指定校推薦を受けている大学・学部）

大学	学部	大学	学部
早稲田	理工（基幹・創造・先進）	法政	グローバル教養
慶應義塾	法・理工	中央	商・理工・総合政策
上智	総合グローバル		国際経営
青山学院	文	明治薬科	薬
立教	GLAP	昭和薬科	薬
学習院	文・理・国際社会科	東京薬科	薬・生命科学
東京理科大学	理工・理・工		その他、合計 60 大学

【成蹊】

成蹊大学への内部推薦は、高校在学中の成績および出席状況の基準を満たすことが条件です。それらの基準は、学校の授業に普通に臨んでいればクリアできるものです。80～85%の生徒が基準をこえています。

また、成績上位者には、内部推薦の資格を持ちながら外部大学を受験できる制度（内推併願制度）もあります。推薦にあたっては、学科毎に定員が設けられています。

《成蹊大学（2022 年度：内部進学率 31.3%）》

学部	人数	学部	人数
文	25 名	法	15 名
経済・経営	48 名	理工	12 名
卒業生数	319 名	内部進学者数	100 名

【中央大学杉並】

中央大学への推薦資格を保持したまま、他大学受験に挑戦することができます。

国公立大学・海外大学：中央大学に既に推薦されている生徒でも、全ての国公立大学・海外大学へ挑戦することができます。

私立大学：中央大学に推薦されている生徒でも、中央大学にない学部・学科であれば私立大学との併願受験が可能です。

《中央大学（2022 年度：内部進学率 92.9%）》

学部	人数	学部	人数
法	99 名	文	33 名
経済	65 名	総合政策	20 名
商	64 名	国際経営	7 名
理工	31 名	国際情報	8 名
卒業生数	352 名	内部進学者数	327 名

【同志社国際】

同志社大学、同志社女子大学への推薦制度が用意されており、この制度を利用して90%以上の生徒がこれらの大学に進学しています。

《推薦指定校・指定校に準ずる大学》

首都圏・近畿圏を中心とするいくつかの大学から指定校としての推薦を得ており、これを利用して進学する生徒たちがあります。

(推薦指定校および指定校に準ずる大学)

青山学院・関西学院・国際基督教・上智・中央・津田塾・立教 など

【日本女子大学附属】

日本女子大学は4学部15学科を擁する総合大学であり、例年約75～80%の生徒が自分の希望に合う学科を選び、進学しています。各学科が附属高校の生徒のために用意する推薦枠の総数は1学年の生徒数を大きく上回っており、希望が特に集中してしまう場合を除けば、自分の好きな学科を選択することができます。

《日本女子大学(2022年度:内部進学率74.9%)》

学部	人数	学部	人数
文	32名	理	17名
人間社会	92名	家政	140名
卒業生数	375名	内部進学者数	281名

《併願制度》

第一志望である他大学の学部で不合格になったとき、第二志望として事前に希望を出していた日本女子大学のいずれかの学部学科に入学を認める制度です。日本女子大学にない8学部(医・歯・薬・看護・獣医・法・芸術・体育)のいずれか一つの学部の受験については、日本女子大学との併願が可能です。これに加えて、日本女子大学の志望学科が人間社会学部、理学部または国際文化学部の場合、国公立大学および各省庁大学校の受験については、受験学部を問わず併願可能となります(いずれも推薦入試は除く)。

【法政大学国際】

本校の法政大学への推薦入学制度は、学力が一定の基準に達していれば、原則として全員が推薦されるというものです。法政大学に推薦される資格を保持したまま、その他の大学への併願受験が可能です。

《法政大学(2022年度:内部進学率81.8%)》

学部	人数	学部	人数
法	38名	キャリアデザイン	14名
文	32名	スポーツ健康	6名
経済	29名	GIS	2名
社会	35名	情報科	5名
経営	37名	デザイン工	10名
国際文化	12名	理工	2名
人間環境	16名	生命科	7名
現代福祉	11名		
卒業生数	313名	内部進学者数	256名

【立教新座】

推薦基準概要

- 卒業研究論文を提出し、認定されること
- 英語についての一定の能力が認定されること
- 国語についての一定の能力が認定されること
- その他の科目の能力が認定されること
- 学校生活上の状況が良好であること(欠状状況等)
- 立教大学への進学を希望し、勉学の意志を明確に持っていること
- 自己推薦項目で一定のポイントを取得していること
- 高校が定める卒業に必要な単位を修得していること

《立教大学(2022年度)》

学部	人数	学部	人数
法	54名	コミュニティ福祉	2名
経済	60名	経営	36名
社会	42名	現代心理	8名
文	31名	異文化コミュニケーション	12名
観光	13名	GLAP	0名
理	8名		
卒業生数		内部進学者数	266名

【早稲田大学系属早稲田実業】

卒業する生徒のほとんどが、早稲田大学各学部に進学され入学しています。推薦は、生徒本人の志望する学部・学科と、在学時におさめた成績、人物の評価などを総合的に判断したうえで実施されます。

《早稲田大学(2022年度:内部進学率97.8%)》

学部	人数	学部	人数
政治経済	65名	創造理工	23名
法	33名	先進理工	31名
文	20名	社会科	50名
文化構想	25名	人間科	9名
教育	60名	スポーツ科	5名
商	55名	国際教養	10名
基幹理工	23名		
卒業生数	418名	内部進学者数	409名

【早稲田大学本庄高等学院】

進学する学部は、本人の希望を踏まえながら、3年間の成績と卒業論文などを参考に決定されます。学部によっては、3年次選択科目等の履修条件がありますので注意してください。

なお、他大学進学の場合には早稲田大学への推薦権を放棄しなくてはなりません。

《早稲田大学(2022年度:内部進学率98.8%)》

学部	人数	学部	人数
政治経済	77名	創造理工	34名
法	42名	先進理工	15名
文	19名	社会科	21名
文化構想	25名	人間科	4名
教育	18名	スポーツ科	1名
商	36名	国際教養	15名
基幹理工	29名		
卒業生数	340名	内部進学者数	336名

【早稲田佐賀】

本校は早稲田大学の系属校として、入学定員の50%上限とする推薦枠を設定しており、早稲田大学の全ての学部に対して校内の規定により、推薦を決定します。明確な目的意識を持ち、早稲田大学へ進学していく生徒に対しても丁寧に指導します。

《早稲田大学(2022年度:内部進学率48.0%)》

学部	人数	学部	人数
政治経済	10名	創造理工	2名
法	7名	先進理工	4名
文	10名	社会科	10名
文化構想	10名	人間科	10名
教育	10名	スポーツ科	10名
商	10名	国際教養	9名
基幹理工	8名		
卒業生数	229名	内部進学者数	110名

【早稲田摂陵】

早稲田大学系属校である本校には、全学部への推薦枠(40名程度)があります。条件を満たせば、希望の学部に進学することができます。

(選考基準) 早稲田大学を第一希望として、学力・人物とも優秀な生徒(高校3年間の成績、高校3年次の模擬試験など)

(選考方法) 高校3年11月頃、希望者を募って校内選考を行います

【早稲田渋谷シンガポール】

早稲田渋谷シンガポール校は、早稲田大学の系属校として、毎年一定数の生徒(計82名の推薦枠を付与されています)が早稲田大学に推薦で進学ができます。

生徒本人が志望する学部・学科と在学時の成績、人物の評価などを総合的に判断して決定されます。

◆ 入試直前のポイント

■ 健康管理

受験が終了するまで注意すべき最も大切なことは、『**体調を整える**』ことです。特に帰国生の場合、環境の変化で体調を崩しやすくなります。時期的にもいろいろとやり残している気がして、ついつい無理なスケジュールで勉強や入試準備をしてしまいがちです。

しかしながら、どんなに学力があっても入試当日に体調を崩しては何もなりません。本番の試験で、最後の最後にものをいうのは、実は学力より体力であるということも知っておくください。規則正しい生活を心がけるように！

勉強のスタイルは、夜型の人は朝型に変えていくようにしましょう。頭が働いていないうちに一時間目の入試科目が終わってしまうということにもなりかねません。

- ①『きちんと寝る』：健康を維持する上でこれほど大切なことはありません。日により寝る時間がまちまちというのは、よくありません。寝る時間と起きる時間は規則正しくしましょう。
- ②『きちんと食べる』：栄養バランスの取れた食事をしっかりとらない人は、体調を崩しやすく、実力を発揮できないことが多いようです。
- ③『疲れをとる』：一日の疲れは、その日のうちに解消させましょう。疲れがたまってきた頃に風邪をひくケースを多く見かけます。疲れをとるためには十分な睡眠が必要です。

《 入試直前講習の宿泊生の1日のスケジュール例 》

時間	項目	時間	項目
6:40	起床	13:30~14:40	授業③
7:00~8:30	朝食など	14:50~16:00	授業④
8:30~9:20	課題学習	16:10~16:30	ミーティング
9:30~9:50	朝トレ	16:30~17:40	授業⑤
10:00~11:10	授業①	18:00~19:00	夕食
11:20~12:30	授業②	19:00~21:00	課題学習
12:30~13:30	昼食	21:00~23:00	入浴・消灯

■ 入試一週間前

この時期の最も大切な心構えは、『**焦らないこと**』です。一週間前となれば、「あれも、これも」と気持ちばかりが先行しがちです。一週間ですることはたかが知れています。だからこそ、たかが知れている中で、できる限り能率的で効果的な勉強をしなければなりません。この時期、精神的に陥らないようにすることは、『**焦ること**』と『**諦めること**』のこの2つになります。

入試科目すべてについて細部まで総復習することは、時間的に難しいでしょう。大雑把でも出題頻度の高いものと最重要と言われているものを、教科書・ノート・参考書などで確認しておきましょう。基本事項の確認が終わったら、入試日程に合わせたリハールをしておきましょう。入試の時間割を見て、科目の順番や試験時間に合わせて勉強します。例えば、数学の試験が60分であれば、実際に60分でどれだけ問題が解けるのか、見直すための時間をどのくらいとれるか、どういう問題から手をつけるのが効果的かなどを本番の入試に合わせて、最も効果的な答案作成の作戦を練ることです。

どうしても勉強が手につかない場合は、先生や両親に相談してみましょう。たとえ解決策が見つからなくても、話すことでずいぶん心が落ち着きます。自分の胸の中だけに不安をしまっておかないことが重要です。

■ 入試前日

いよいよ明日は入試という日は、不安な気持ちになるものです。これは自分だけではないのですから、体調に注意して、ごく普通に過ごしましょう。次の3点を確かめておけば、不安も少しは和らぐはずです。

①入試会場までの道順や集合時間の確認。

②持ち物

服装や頭髪をきちんとしておくことは言うまでもありません。受験票や筆記用具の他に、学校によっては定規やコンパスを指定することもあります。もう一度入試要項の所持品の項目を確認しておきましょう。新品でなく、普段使い慣れたもので充分です。むしろその方が気持ちも落ちつきます。

③身体のコンドিশョン

体調が良いか悪いかは、自分が一番良くわかるはずですが。あまり良くない状態であれば、良くするための努力を最後までしましょう。前日は一日ゆっくり休養するつもりで、早めに夕食や入浴をすませ、就寝しましょう。眠れそうになくても気持ちを落ち着けてゆったりと横になり、目をつぶっていれば、たとえ眠れなくとも精神的にも身体的にも充分に休むことができます。あせらないことです。

■ 入試当日

ここまできたら、自分の持っている力をすべて出し切れるようにするだけです。

①『朝、自宅で』：試験開始と同時に頭をフル回転させるために開始時刻の3時間前には起床しておきましょう。脳にエネルギーを与えるために朝食は欠かせないように。朝食は入試だからといって特別なメニューは必要ありません。いつも通りの朝ごはんが一番です。余裕があれば、漢字や計算など毎日続けている朝勉強に取り組んでみましょう。

当日の朝は、テレビのニュースやインターネットで、利用する交通機関に遅れやトラブルがないかを確認してから出かけましょう。天気予報で雨や雪が予想されるときは、すべらない靴や雨具の他に、タオルや替えの靴下などの用意もしておきましょう。

家を出る前に、もう一度持ち物を確かめましょう。受験票は家を出るときから自分で持っておきましょう。「備えあれば憂いなし」と言います。必要と思えば、お守りを持っていくのもいいでしょう。落ちついて受験できれば、立派に役立ったことになります。

②『試験会場で』：最も重要なことは、「あがらない」ことです。「あがりやすい人」「緊張しやすい人」は、自分の「あがり方」「緊張の仕方」を覚えておくことが対策になります。会場の掲示物には必ず目を通し、連絡や注意事項は見落とさないように注意しましょう。困ったことや分からないことが生じたときは、先生または係員に申し出て、その指示に従いましょう。自分で勝手に判断しないことです。テストの休憩時間は、友達と雑談でもして気分転換をしてもかまいません。ただし終わったテストについて考えることは避けましょう。次のテストに悪影響を与えるだけです。

入試当日は心を静かに落ち着けて、冷静に対処することが最も重要です。

3. 学習アドバイス

■ 過去問演習の方法

「過去問演習は、第一志望からやっている」という声をよく聞きますが、第一志望の入試問題のレベルは高いことが多いので、まずは、おさえの学校の過去問の3年間分を終わらせ、第二・第一志望の順に進めるのも一つの方法です。

過去問をやることの意味を自分でしっかり考えて実行することが大切になります。なんとなく、そろそろやらないとまずい、という形で過去問にあたると、最後までできなかったり、効果的でなかったりという結果になってしまいます。

過去問を始める時期は、入試範囲の学習が一通り終わっていることが前提になりますから、基本的には夏以降になることが多いでしょう。弱点科目や不得意単元などが残っている場合は、まずそこから手をつける必要があります。だからと言ってそこにいつまでも時間をかけていると過去問をやる時間がなくなってしまいます。だからこそ、夏休みは、入試範囲の終了と弱点克服というテーマを掲げて徹底して勉強しておく必要がありますので、有効で無駄のないスケジュールを組んでください。

演習に必要な時間を考える

帰国生の平均的な願書提出校数は4校～6校ですので、受験予定校が5校あるとして考えます。市販されている各学校の過去問は、5年～8年分の問題が載っています。これを実際に3年分を解く時間を、単純に計算してみると、次のようなことがわかります。

たとえば、A高校の英語の問題(試験時間は50分)を1年分やるとします。だからといって50分で終了ということではありません。問題を解き終えた後に採点し、できなかった問題は解説を読み、やり直しをしてそのパターンの問題ができるようにしなくてはなりません。このための時間を試験時間と同じ50分かかるとします(学校や年度によって、多少の時間のズレは生じます)。休憩を一切入れないでも100分はかかります。数学と国語についても同じように考えると、A高校の3教科、1年分の過去問を仕上げるのには、 $100分 \times 3教科 = 300分$ はかかることになります。過去5年分を実行しようとする、 $300分 \times 5年分 = 1500分$ になります。つまりA高校の過去問を終えるのに、25時間休みなしですずっと机に向かっていくことになります。受験校は全部で5校ですから、 $25時間 \times 5校 = 125時間$ です。

この125時間という時間は、毎日欠かさず過去問を1時間やったとして、125日間かかるわけです。もちろん、平日には学校の宿題や塾に通っている人は塾の宿題をやらなくてはなりません。その他に、宿題でできなかった問題の直しや弱点補強の時間も必要になります。

また、2学期は学校行事も盛りだくさんで、文化祭、体育祭や修学旅行などの行事もあります。しかも、過去問を解いていくことは、上記の計算のように単純にできるものではなく、実際には土曜日や日曜日などのまとまった時間のある日にやるしかありません。過去問を年内に終わらせると仮定すれば、9月から12月末までの土曜日・日曜日を数えると、約35日です。 $125時間 \div 35日 \approx 3時間半$ になります。仮に土曜日は何らかの用事があるて使えないとすれば、日曜日には約7時間ずっと休みなしで過去問を解いていることになります。一日でもサボれば、過去問を一通り解き終えるということではできないでしょう。

9月以降の学習スケジュールをもう一度しっかり考えましょう。また、このことから、いかに夏休み中の学習が大切かということを再認識できたのではないのでしょうか。

過去問演習の目的

過去問のやり方について、ここまでとはにかく過去問を一通り終えるためには、どのくらいの時間がかかるかということ、単純に時間を計測してみました。

過去問の解き方としては、すべての問題について時間を計って1年分ずつやっていくという方法はあまり好ましくありません。もともと過去問を解くという行為は、その学校の出題傾向をつかむことで、当日の試験に向けて問題を解く順序などを調整して時間配分を自分で組み立てられる、ということと共に、これからの学習スケジュールを組み立てる際に、どのような問題形式で何の単元を集中して学習していくかという方向性がわかるという目的があります。しっかりと出題傾向をつかんでその対策を立てるということができるわけです。

傾向をつかむために

ではどうすれば効果的にその目的を達成できるかということ、ひとつ、こんなやり方もありますから参考にしてください。

たとえば、B高校の数学について考えましょう。過去問は8年分あるとします。まず、年度の古い順に5年分の問題を切り取りましょう。そして【1】の問題だけを取り出してひとつのグループにしてください。同様に【2】のグループ、【3】のグループと各大問ごとにまとめていきます。そしてそれぞれのグループの出題内容を確認してみてください。【1】の問題は計算・小問総合問題、【2】は関数問題、【3】は平面図形の相似問題・・・、それぞれの設問の特徴をつかんでいきます。まさにそれが傾向をつかむということです。多少のブレがあるかもしれませんが、大筋は毎年同様な形になっているでしょう。

次に、それぞれのグループごとに5年分をまとめて解いていきます。これで、【1】のパターンは克服した。次は【2】のパターンだ、という手順で問題を解いていくと、具体的に傾向をつかみ、その対策を立てるという二つの目的が達成されます。これでB高校の前半の過去問を解く作業は終了です。残りの直近の3年分は、少し期間をおいて、改めて解いてみましょう。ただし、この時のやり方は、これまでとは方法を変えて、実際に試験時間の50分を計って実行してください。これはやはり、実際に50分という時間内(決められた試験時間内)に一通り問題を解いてみるという経験が必要だからです。最後の3年分は、他の教科、国語・英語と共に、自分なりに時間配分を確認しながら最近の傾向の変化を確認しながら解いてみてください。

いかがですか？ 具体的な過去問を解いていくイメージはできましたか？ でも、ここまでやっても本番では出題傾向が大きく変化してこれまでの対策が生かせなくなってしまうかもしれません。確かにそれは誰も否定できません。だから上記のような対策は無意味だという受験生が時々います。しかし、出題傾向が変化して戸惑うのは自分だけではなくすべての受験生ですから条件は同じです。逆にもし例年通りの傾向だった場合、上記の対策を立ててきた受験生とまったく過去問をやったことなかった受験生とが勝負したらどちらが有利かを考えてみてください。

過去問を解くということについて、自分なりにもう一度具体的に考え、目的を明確にして確実に帰国前に解いておきましょう。入試当日、過去問をすべて解いてある人の心理と、最後まで解くことができなかった人の心理を想像してみてください。だれも後者にはなりたくないはずです。